目　次

はじめに

第 1 章　子どもの地位を再考する：子どもの出生正当化の規範理論の不在とその必要性 …… 1

第 1 節（1.1）　科学技術の進展は生殖・出生問題にどのような影響を与えるのか　1

第 2 節（1.2）　生の「質」の選択　3

第 3 節（1.3）　偶然性と選択性の揺らぎ　5

第 4 節（1.4）　人権観念の伸張と利益相克問題　8

第 5 節（1.5）　当事者間の角逐問題　9

第 6 節（1.6）　出生可否についての判断枠組み　15

第 7 節（1.7）　子どもの地位を再び受け止める　19

第 2 章　これまでの生殖・出生容認論のありよう …… 32

第 1 節（2.1）　整理・類型化について　32

第 2 節（2.2）　宗教的正当化　32

第 3 節（2.3）　世俗的正当化　33

第 1 項（2.3.1）　人間論的正当化　33

第 2 項（2.3.2）　関係論的正当化　39

第 3 項（2.3.3）　人格（非）同一性論的正当化　49

第 4 項（2.3.4）　生殖権・生殖の自由からの正当化　56

第 4 節（2.4）　その他の世俗的正当化　63

第 3 章　生殖・出生非容認論のありよう …… 81

第 1 節（3.1）　同意不在を根拠とした制約論　81

第 1 項（3.1.1）　介入と同意　81

第 2 項（3.1.2）　二つの危害論　86

第２節（3.2）　帰結主義的な制約・否定論：ベネターを中心とする反出生主義的主張　93
第１項（3.2.1）　帰結主義的な制約・否定論とは何か　93
第２項（3.2.2）　存在をめぐる非対称説からの出生否定論　97
第３項（3.2.3）　悲観主義的人間観からの出生否定論　108
第３節（3.3）　小括：これまでの否定論の課題　125

第４章　生殖・出生正当化構想 …… 134
第１節（4.1）　生殖者側の不可避的主導性　134
第１項（4.1.1）　不可避的主導性とは何か　134
第２項（4.1.2）　パターナリズム的正当化論　135
第３項（4.1.3）　仮想的同意論　137
第４項（4.1.4）　範疇錯誤論　143
第５項（4.1.5）　生殖者側の主導性　146
第２節（4.2）　益―害比較論およびリスク論　148
第１項（4.2.1）　利益・利害調整　148
第２項（4.2.2）　益害計算論　153
第３項（4.2.3）　リスクと親の生殖責任　155
第３節（4.3）　生殖理由論　172
第１項（4.3.1）　義務論的生殖理由論　172
第２項（4.3.2）　生殖善行論　184
第３項（4.3.3）　コントロール批判論　189
第４節（4.4）　子ども自身の立場からの議論　196
第１項（4.4.1）　生得権（バースライト）論　196
第２項（4.4.2）　同一個人内比較論　199
第３項（4.4.3）　生まれてくる子どもの視点　202
第４項（4.4.4）　子どもの権利から見た生殖・出生正当化原理　210

第５章　応用問題に向けて：福利と尊厳の観点から …… 234
第１節（5.1）　具体問題類型論　234
第１項（5.1.1）　生殖正当化原理と応用問題に向けて　234

第２項（5.1.2）　自然・生理学的論点　235
第３項（5.1.3）　社会的論点　240
第２節（5.2）　具体論：障がい児生殖・出生を例に　242
第１項（5.2.1）　障がいの定義をめぐって　243
第２項（5.2.2）　無危害責任論　246
第３項（5.2.3）　実体判断基準論　253
第３節（5.3）　原理とその達成手段　259
第１項（5.3.1）　原理と実行　259
第２項（5.3.2）　規制論　262
第３項（5.3.3）　支援論　263
結　語　出生前・出生後に貫通する子どもの権利論の再構築：出生肯定論の展望……270
参考文献一覧
索　　引